

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	22222001	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	OS型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	小泉 政利 (東北大学・大学院文学研究科・准教授)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A- 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、語順がOS型（VOSが基本語順）であるカクチケル語（マヤ諸語のひとつ）を主な対象に、語順と文処理における負荷とのかかわりを明らかにすることを目的としたプロジェクトであり、研究は概ね順調に進展している。

例えば、普遍的にSO型語順（SOV,SVO,VSO）の処理負荷が低いとする仮説に対して反証するとともに、広く一般に仮定されている産出頻度と処理負荷が低い語順との相関性を否定する結果を得るなど、興味深い成果を上げつつある。

ただし、この研究成果が真に妥当かどうかを検証するためにはカクチケル語以外のOS型語順をとる言語について調査すべきである。さらには、この成果が当該分野の他の専門家たちにどのように受け入れられるのか、また批判されるのかを検証するような機会を早い時期に作るべきである。

【平成27年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、問題点も残った。
A-	<p>本研究は、語順がOS型であるマヤ諸語の一つのカクチケル語を対象に、語順と文処理における負荷との関わりを明らかにすることを目的としたプロジェクトで、研究は概ね順調に進展したと言える。アメリカ言語学会の機関誌 <i>Language</i> に掲載された short report をはじめとする研究論文等も多く公開され、確実な成果を上げた。</p> <p>しかしながら、本研究が既存の理論に対する抜本的な修正を迫る研究であるとするならば、平成25年度の研究進捗状況報告書で計画されていた、カクチケル語以外のOS型語順の言語にも理論が当てはまるかを検証する調査研究が必要であったが、それがなされていないように見受けられなかったのは残念である。</p>